AIDS UPDATE

No.30 2002.3.5

広島大学医学部附属病院
エイズ医療対策室
内線2941（輸血部長室）
Internet:www.aids-chushi.or.jp

平成13年度職員エイズ研修会
『HIV感染症治療の進歩と HIV除去精子による体外受精』

日時：2002年3月14日(木)17:30～19:30
場所：広大病院外来棟３階大会議室
講師：花房秀次先生
（荻窪病院血液科部長、慶応大学医学部小児科非常勤講師）

● HIV感染者も子供が欲しいと思う ●

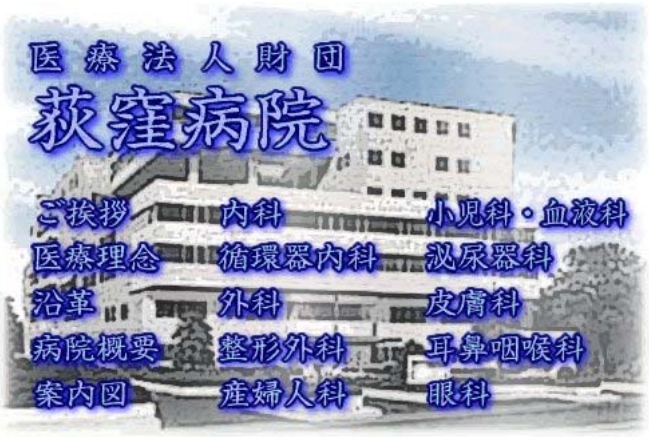
◆　最近は有効な抗HIV薬の使用によって、HIV感染者は発病しなくなり、病気を抱えながら社会生活を続けるようになっています。結婚する人も増えました。子供が欲しいと思うカップルもいます。HIVに感染しているのが女性だけの場合、男性だけの場合、そして両方の場合で、色々条件が変わってきます。このような感染者の真剣な悩みに応じるのは、医療者の務めではないでしょうか？

● 医療技術とチームケア ●

◆　今回は、HIV陽性の男性が、女性のパートナーにHIVを感染させずに子供を得たいというのがテーマです。採取した精液を分離してHIVを洗い落としてみてはどうか、というアイデアをもとに、Percoll法とSwim up法を用い、鋭敏なウイルス検査法を開発し、一つ一つ実験を重ねながら実現にたどりついた経緯です。医療技術を用いながら、カップルには様々な角度から情報提供とインフォームド・コンセントを繰り返しました。

● 荻窪病院と花房先生のこと ●

◆　講師の花房秀次先生は、安芸郡坂町のご出身で修道高校から慶応大学医学部に進まれました。勤務先の荻窪病院は血友病患者数が400人と、日本で最も多い病院の一つです。医師、看護職、心理職などのケア提供者と、しっかりした患者組織が両輪となって包括的なケアを支えています。



＜ご意見募集＞

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]
takata@aids-chushi.or.jp